

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28 年 3 月 7 日

### 【事業所概要【事業所記入】】

事業所番号	3491500819		
法人名	介護福祉サービス株式会社		
事業所名	グループホーム ゆうゆう金丸		
所在地	広島県福山市新市町金丸506番地		
	電話番号	0847-40-4040	
自己評価作成日	平成28年 2月 5日	評価結果市町村受理日	平成28年3月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

### 【外部評価機関概要【評価機関記入】】

評価機関名	一般社団法人 みらい
所在地	広島県福山市山手町1020番地3
訪問調査日	平成 28 年 2 月 22 日

### 【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様・ご家族様様の希望・意向をしっかりと聞きながら、重度化への対応・終末期ケアにも可能な限り対応を行わせていただいております。2つのユニットを持っていることを活かし、認知症レベル・身体機能レベルに応じたグルーピングを行い、おひとりおひとりの状態に沿った支援が行えるよう努力をしております。また、地域行事・地域活動にも参加をさせていただきながら、地域交流を行い、地域の中で必要とされる事業所に成長できるよう努力させていただいております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

市中心部の北部に位置し、昔は菊の里と言われていた場所にある。周りには中学校や交流館があり、穏やかで自然豊かな環境である。同法人の小規模多機能が併設されていて共に協力し合い、利用者同士の交流や安全確保に努めている。医療面に於いてはホーム長が看護師であり、他に数名の看護師が常駐している事と協力医療機関との連携が密に図られ24時間体制で安心安全であると共に重度化や終末期の状況変化が生じた場合にも家族の意向や希望に添った対応ができ、家族から多くの信頼が得られている。ケアに関しても職員の研修を広範囲に実施し、スキルアップに繋がられ、介護の基本を念頭にその人の想いや尊厳を大切に急がず、優しく丁寧な介護をするよう全職員が統一した支援に取り組まれている。又、地域との交流も地域の一員として行事には救護班としての役割、又、近隣の交流館での地域の勉強会には講師として出られる等地域貢献もされている。家族との信頼関係を築き、家族、地域、事業所、三者で利用者を支え其の地で安心して過ごせる様努められ、今では其の地に根づき、地域と共に歩まれ、無くてはならない事業所となっている。今後大いに期待したい。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の経営理念は毎朝の朝礼時に、出勤者全員で唱和した後、業務にあたっている。また、GHの運営理念を職員の声・意見・想いなどを出し合い作成し、日々の業務にあたっている。	職員の意見が反映された独自の理念を作られ、全員が共有し実践に繋げている。又、毎朝法人理念も唱和され振り返る機会としている。新人研修でも理念の重要性を伝え全員が理解できるよう取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りやイベントなどへの参加を行ったり、地域のサロンでの元気塾の講師をさせていただく中で地域交流を行っている。	地域行事(夏祭り、運動会、敬老会等)に参加し、日常的に交流されている。夏祭り等には救護班としての役割もあり地域の一員として参加している。交流館での元気塾には講師として出向かれ地域資源の活用と地域貢献も積極的にされ関わりが密にできている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記同様。認知症についての講演・レクリエーションなどの講師として定期的に参加・活動を行い、地域の方々に認知症・認知症ケアについて知っていただく機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の開催を継続的に行っている。事業所の運営・行事報告や地域の代表の方からのお話し・地域の方々との意見交流を行っている。運営会議の中で話し合われた内容については、随時、職員会議・ミーティングの中で伝達を行い、事業所運営に反映できるように取り組みを行っている。	家族をはじめ地域の各役員、近隣の薬剤師の方、包括、行政等の参加の下、現状を多岐にわたり報告し、参加者全員に一言づつ意見を頂き、それらの意見は全職員に伝えサービスに活かしている。防災訓練や勉強会となる事もあり有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困ったこと・不明なこと等、担当の方に教えていただきながら対応を行っている。運営推進会議に、市町村担当の方も毎回参加していただいております。なじみの関係ができていと思われる。	疑問点や困難事例等がある場合は相談しアドバイスや助言等得ている。運営推進会議へ毎回参加があり状況は把握してもらっている為、馴染みとなり協力関係が図られている。包括支援センターとの連携もできていて情報提供等得られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除に向けての研修を定期的に行いながら、日々の業務にあたっている。緊急やむを得ない場合や、医師からの指示を受けた方の場合には、家族様への説明を行い承諾をいただきながら、早急に解除に向けての支援を行うよう努めている。	身体拘束、虐待、接遇等の研修を事例を基に実施し、全職員が正しく理解する様取り組まれている。常に其の人に合わせ丁寧な介護をするよう周知し、声かけや見守り重視で統一したケアを心がけている。やもう得ない状況が生じた場合は細やかに状況を把握し協力し合い排除に向けた対応に取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待・高齢者虐待防止関連についての職員研修を行い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が中心となり、できる範囲内での職員教育を行っているが十分とはいえない。高齢者虐待防止に関する研修と合わせて継続的に学習を行ってスキルアップを図る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約・解約の際には、ご本人様が同席できる状態なら同席していただき、話をさせていただいている。不安や疑問などをしっかりと聞きながら対応させていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時や家族会・プラン作成時、個別に意見・要望を聞く機会を設けている。利用者様には、日々の関わりの中で不安や想いを確認する時間を設ける努力を行っている。	訪問時状況を報告する際や家族会議が2～3ヶ月に1回あり、その中でも聞くように努めると共に運営推進会議での意見等も報告し、日々家族との信頼関係を築き忌憚のない意見の聴取に努めている。遠方の方には電話で聞き取るようにしている。それらの意見は運営に反映させ、個々にも対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の全体会議や、定期的開催するカンファレンスなどの機会に職員からの意見や提案を聞き、業務改善に向けて取り組んでいる。不定期ではあるが、ホーム長が職員と面談を行い、職員の想いを聞く機会を作るように努めている。	カンファレンスで個々のケアについての話し合いの中で意見や提案を聞き反映させている。又、全体会議の中でも聞く機会を設け、その中での意見等は法人全体のホーム長会議で検討する場合もある。結果については伝えると共に必要に応じ個人面談の機会も持っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員面談を行い、個々の想い・勤務状況や労働状況などを把握し、よりよい事業所運営に反映していく努力を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップを目指し、研修参加に意欲がある職員に対し、助成などのバックアップを行っている。また、社内研修・事業所研修を行う中で、全職員のスキルアップを図るよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他の事業所とのミーティングを行い交流・情報交換の場を設けている。他の事業所への見学なども積極的に行いながら、サービスの質向上に向けて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安の軽減を図るため、担当制をとり、しっかりと人間関係の構築を行う中での関わりを大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にしっかりとアセスメントを行い、不安や要望、意向を聞きながら関係性と信頼の構築に向けて努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集を行いながら、ご本人様・ご家族様の今困っていること、必要としている事柄・内容・想いを確認し、支援につなげるよう時間を取り対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器拭き・洗濯物たたみなど入居者様と共に活動を行うことを意識しながら関わっている。日常の会話・関わりの中でも、昔のことを教えてもらったり、引き出せるような言葉かけに意識を置いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の依頼・家族会への参加依頼・状態報告を行いながら、ご理解をご協力をお願いし、共に支援を行っていただくよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の方、知人の方の面会を依頼し受け入れを支援している。また、地域の行事等に参加しなじみの関係が継続的に行えるよう支援している。	家族や親戚の方が気軽に訪問される。併設の事業所から馴染みの利用者の訪問もある。又、地域行事に参加する事で知人に会う機会となっている。出来るだけ馴染みの人や場との関係が長く続く様、家族の協力を得ながら柔軟な支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共にできる活動を、協力して行える環境(食器拭き・洗濯物など)を提供し、職員の見守り・介助の中で支えあいながら1つの事柄を行えるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、ご本人様・ご家族様の支援を行っている。はがきや手紙を出す・電話をかけるなど、その後のフォローや支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴などのアセスメントから、おひとりおひとりが望む暮らしが提供できるよう努めている。また、困難な場合には、ご家族様からの協力ももらいながら検討・改善に向けての取り組みを行う努力を行っている。	介護度が高くなり、口頭での希望はでないが行動や表情、選択肢等から汲みとるようにし、可能な限る対応している。また、家族の想いと共に個々の生活歴を細かく把握し、思いに添う支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを時間をかけて取り、日々の生活・支援につなげるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各種アセスメント方式をとり、情報収集に努めている。定期的な見直し・更新を行いながら、おひとりおひとりび状態が把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議やカンファレンスの中でそれぞれの意見を出し合いながら、介護計画の作成にあたるよう努力をしている。	基本情報やアセスメント、家族の要望を基にカンファレンスで職員の意見を反映させ、サービス担当者会議で検討し作成している。モニタリングも定期的に行うと共に見直しも半年ごとに行っている。状況変化があればその都度現状に添った見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その時の様子・表情・言動などを介護日誌に残していく努力を行っているがまだまだ不完全な面が多いのが現状。個々の人がみえる記録が残せるように継続して努力を行っていきたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当法人はGHだけでなく、様々な機能を持った事業所を抱えているため、ご本人様・ご家族様の希望や状態により、適切かつ、柔軟な対応を行うよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事などに積極的に参加させていただき、地域と共に歩ませていただけるような事業所を目指し努力を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関はもちろんのこと、個々の望むかかりつけ医で適切な医療が受けられるよう支援を行っている。協力医療機関以外のかかりつけ医の受診は基本的にはご家族様での対応をお願いしているが、困難な場合は対応を行っている。	協力医療機関の往診が月2回あり、24時間体制となっていて緊急時や夜間等の対応もできると共にホーム長をはじめ看護師が複数常駐している為医療面は安心であり常に適切な医療が受けられる。訪問歯科支援もある。受診結果もその都度家族に報告されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との連携がないと重度化への取り組みや終末期支援は行えないと痛感している。それぞれの職種が持っているよさを活かしながら、協力し業務にあたっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には管理者・看護師が同行し、病院関係者との情報共有・情報交換を行い、早期治療・退院に向けての話し合いを行っている。また、面会なども行き状態・経過を確認・把握ができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化における指針を説明し、入居者様家族様の以降の確認などの確認を書面としてとっている。当事業所で行えること、行えないことをきちんと説明したうえで、ご家族様の意向を伺い書面に残すようにしている。	重度化や終末期の指針を作成され、利用開始時説明している。状況変化によりその都度確認をし、家族の意向や思いに出来る限り沿う様取り組まれている。体験もされ、実例を基に看取り研修も行っている。ホーム長をはじめ看護師が常駐し、家族も安心であり、主治医との連携も構築されている為、重度化された利用者の受け入れも柔軟に対応されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	随時、研修・勉強会を行い、実践に向けて職員のスキルアップを目指している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議などの中で、地域の方々に協力を依頼し、具体的な方法などの検討を行っている。また、避難訓練・火災通報訓練・初期消火活動の訓練などを年に2回行っている。	年2回消防署指導で通報、消火、避難等の訓練を実施している。運営推進会議で行い、事業所の構造等を把握してもらい協力関係に繋げる様取り組まれている。地域の防災訓練にも参加し地域と共に助け合う相互関係の構築に努めている。備蓄もされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇・マナー研修を行う中で、言葉遣い・身だしなみについての研修を行っている。できていない職員には個別にて指導を行い、改善を図る努力を行っている。	尊厳を大切に一人ひとりに合った言葉かけや対応をする様周知されている。研修も実施し統一した対応ができる様取り組まれている。個々の居室に訪問する際にもノックと言葉かけをするよう徹底されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おひとりおひとりの想いを聞きながら、生活が送れるように努めている。また、思いや言葉が引き出せるような言葉かけを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の方の生活リズムに沿って1日が送れるよう、関わりを深めていくことを心掛けている。何がしたいのか・何がしたくないのかなどの想いを引き出せるよう努めていく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪やカラーなど、希望に沿えるよう努力している。2か月に1度、美容師の方に来ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化により入居者様と一緒に食事作りや片付けなどが行えないため、職員が行っている。入居者様の状態に応じて工夫・対応を行っていきたいと思っている。	食材も多くバランスにも配慮しているが重度化されている為ミキサー食の方が多く、食材の説明をしながら支援されている。食事準備や片づけ等出来る利用者がいない。一人ひとりに時間をかけても完食できるような対応をされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェック・水分摂取量の把握に努めている。糖尿病などにより食事制限があり、当事業所での対応が困難な方については配食サービス等を個別に取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。入居様の状態に合わせて支援・介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレ誘導を行い、可能な限りトイレでの排泄が行えるよう支援している。	個々に添った時間帯で日中はできるだけ、トイレでの排泄に心掛けている。排便チェックも行い不穏にならない様、食事等の工夫をされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を使用したり、体操や個別の運動を行い、排便を促すよう努めている。M排便チェックを行い、必要に応じて緩下剤の内服や浣腸等の対応も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望に合わせて、入浴時間・回数を決めている。一般浴・リフト浴・特浴対応を行っている。	週2~3回、時間帯もほぼ決めているが、その中で希望に添った対応をしている。又、隣接の小規模事業所に特浴があり、身体状況に合わせた支援で湯船に出来るだけ入ってもらい血行促進に繋げている。拒否の場合は職員を変えたり曜日を変える等工夫をし清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や気分などの状態に合わせて休憩をとっていただいたり活動を行う時間が取れるよう努力している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況を確認し、異常のあった際には看護師・主治医に連絡を行い指示を仰ぐようにしている。誤薬に注意を行い、チェック・声出しでの確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の入居者様の嗜好品・楽しみなどをアセスメントし、継続して楽しみが持続するよう努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	要望に応じ、ご家族様に承諾をいただきながらできる限りの対応を行っている。また、散歩などを行い、外に出る機会を設けている。	介護度が上がり、外出できる方が少なくなっているが少しでも外気に触れる機会を設け、少人数ではあるが近場への散歩や地域行事に出かけたり、天候の良い日には日光浴をしてもらい、気分転換と五感刺激に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設により管理を行っている。一部の方は、少額ではあるが自己管理されている方もいる。個々の状態に応じて支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙のやり取りなど、希望があれば積極的に応じている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備を行い、混乱を招く刺激が少ない環境配慮を行っている。トイレ・洗面台の掃除は、時間を決め、清潔に保てるよう努力している。	日当たりも良く、季節を感じる装飾品もある。室内の清掃も行き届き清潔であり、不快なおいもなく室温にも配慮されている。畳のスペースもあり、死角がなく見守りし易く安全に過ごせる共有空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	おひとりおひとりが、思い思いの場所で、過ごしたいヒット、時間を過ごせるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、なじみのものの搬入をお願いしているが、なかなか持参していただけないのが現状である。今後も、継続して声かけ・働きかけを行っていくことが必要であると感じている。	思い出の写真や寝具、収納ケース、テレビ等が持ち込まれ、限られたものではあるが、其の人らしさが感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱を招かないよう、不要なものは片づけるようにしている。安全に配慮し環境整備を行っている。		

V. サービスの成果に関する項目【アウトカム項目】

項目		取り組みの成果(該当するものに○印)		項目		取り組みの成果(該当するものに○印)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼすべての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼすべての家族と
			②利用者の2/3くらい				②家族の2/3くらい
			③利用者の1/3くらい				③家族の1/3くらい
			④ほとんど掴んでいない				④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に一度程度ある			○	②数日に1回
			③たまにある				③たまに
			④ほとんどない				④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼすべての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
		○	②利用者の2/3くらいが				②少しずつ増えている
			③利用者の1/3くらいが				③あまり増えていない
			④ほとんどない				④全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き活きた表情や姿が見られている		①ほぼすべての利用者が	66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
		○	②利用者の2/3くらいが				②職員の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③職員の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
60	利用者は戸外の行きたい所へでかけている		①ほぼすべての利用者が	67	職員から見て利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが			○	②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが				③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼすべての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②利用者の2/3くらいが			○	②家族等の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼすべての利用者が				
			②利用者の2/3くらいが				
			③利用者の1/3くらいが				
			④ほとんどない				

事業所名:グループホームゆうゆう金丸

作成日:平成28年3月31日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	本人又は事業所での研修は定期的を実施しているが、不規則な勤務の為、数回に分けて実施しなければならない。(法人全体研修は約80%の参加、事業所では70%程の出席率)より多くの参加を促し、新人スタッフも自信を持って業務につけるような体制をとりたい。	法人、事業所共に2回に分けて100%の参加になるように、又不明な点は各事業所内で質問し合える体制を作っていきます。	・若く経験の少ない職員は、法人、事業所共々に必ず参加する。 ・全体会議の中で再度議題に上げ、一つづつを納得いくまでディスカッションする。	1年間
2					
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。